

3448 黄山絶景：状況と心模様①

自然の神秘が創作した水墨画の世界。黄山は、中国安徽省の南部に位置している。
72の奇峰、奇松、怪石、雲海、奥深い山岳地帯。面積 154 km²、標高 1860m。
気象変化も激しく、夏でも防寒具が必要なほど寒い。

私が訪ねたのは12月中旬から、お正月を黄山で迎えた。山道も表道も氷結。

山かげの裏道の積雪も氷結。アイゼンをつけての探訪、山ごもり。

ガイドなし。身一つ。好きなことだから出来た。厳しかったが、この実体験は心の財産。

この数年は私的な激動激変が続いていた。心身とも酷使、世間や情報氾濫、
惰性に流されないように、自分を見つめ直したいと感じていた。忙しい日常からの脱出。

絶好の機会にめぐまれた。自然と対峙し、自分との会話切望が実現。



心洗われるような感動を求めるには、普通のことをしていては得られない。
実践なしに悩むより、その時の心理状態では、心身に激震を与える方が効果ありと判断。

地の果てや僻地、厳しさを覚悟して、黄山、山ごもりを敢行。

その選択の背景は、日本なら山は富士、中国は黄山。
「黄山归来不看山」黄山から帰ったら、もう山は見なくていい。黄山が一番、という言葉。
中国の悠久の歴史と広大な国土と自然。

子供の頃、歴史の時間が大好き。孔子に孟子、山水画。切り立った峰々。奇松に雲海。
ぜひ一度、その地に身を置きたいと夢を描いていた。
しかし、自由のない国との先入観、言葉の問題もある。まして、ひとり旅。

気をとられない、自然や情景に集中したひとり旅を切望。
カメラを持参しての事。ガイドも開放してくれない。問題発生は、ガイドの責任。
時には、ガイドの助言が役立つが、目標が違う。

すべて企画外れの考動をするのが好き。未知への挑戦、そこに、違った視点や体験がある。
普通のやり方でない、計画もない、直感と感性の旅。大人の約束。
山奥である。ともかく、開放してくれた。そして3週間、黄山風景区の探訪開始。